

<b>一般選抜 (B方式)</b>	<b>国際文化学部国際文化学科</b>	<b>小論文 (60分)</b> <b>※解答省略</b>
-----------------------	---------------------	----------------------------------

次のA・Bの一つを選び、1,000字以内で論述しなさい。

- A 現在、日本を訪れる外国人観光客が増えている。その利点と問題点を少なくともそれぞれ一つあげ、後者の解決策について、あなたの考えを論じなさい。
- B 現在、日本文化の国際化が進んでいる。その具体例を一つ以上あげ、今後の展望について、あなたの考えを論じなさい。

**【出題の意図】**

A・Bとも、昨今の国際化の進展の結果として、日本が直面している問題について、普段から関心をもっているかどうかを確認する問題である。国語における基礎的な学力（論理的で破綻のない文章を記述する力があるか）もあわせて確認する。

選択問題Aでは、社会的な出来事への関心、及び地域や社会の発展についての日頃の関心と考察力を確認する。適切な「利点」と「問題点」を指摘し、自分なりの解決策を提示できていることがポイントである。

選択問題Bでは、日本文化に関する日頃の関心と考察力を確認する。日本文化の国際化に関する適切な「具体例」と、それについての自分なりの「今後の展望」を提示できていることがポイントである。

<b>一般 (B方式)</b>	<b>健康生活学部食生活健康学科</b>	<b>小論文 (60分)</b> <b>※解答省略</b>
---------------------	----------------------	----------------------------------

近年、外食、加工食品、調理済み食品、栄養機能食品、特定保健用食品など、利用される食品の形態や機能はますます多様になってきている。食生活の多様化について、利点欠点を交えて、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

**【出題の意図】**

一般選抜B方式における小論文では、食生活健康学科のアドミッション・ポリシーに基づき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する。この問題は、食生活の多様化に関する理解と、その利点と欠点の両側面から自身の考えを論理的に表現する能力を問うものである。

一 般 (B方式)	健康生活学部生活デザイン学科	小論文 (60分) ※解答省略
--------------	----------------	--------------------

2024年1月1日に発生した能登半島地震により大きな災害が生じた。また、その他にも、地震や豪雨により、被災する例は多い。被災に備える防災の観点から、デザインはどのような役割を果たすか、どのようなデザインが必要と考えるか、あなたの考えを700字程度で述べなさい。

**【出題の意図】**

専門分野を学ぶ上で必要な基礎学力をはかるための「知識・技能」、また、人々の生活をより豊かにするため、デザインを創造する感性や技術を磨き、環境に配慮しながら健康で快適な生活を実現させることができる専門分野に興味・関心を持ち理解しているか、を問う意図をもって出題している。

一般選抜 (B方式)	健康生活学部生活デザイン学科	デッサン (70分) ※解答省略
---------------	----------------	---------------------

与えられたモチーフを自由に配置・構成し、画用紙に鉛筆でデッサンしなさい。ただし、モチーフはすべて使用すること。変形させてもよい。

**【出題の意図】**

モチーフ(静物)を構成し鉛筆デッサンすることにより観察力と対象理解力、空間把握力、基礎的描出力と表現力および構成力を問う。

一 般 (B方式)	健康生活学部子ども学科	小論文 (60分) ※解答省略
--------------	-------------	--------------------

2023年から2024年にかけて、「こども誰でも通園制度」のモデル事業が115の市町村で行われている(2024年6月14日現在)。これは2026年度の本格的な実施に先駆けて、専業主婦(主夫)や育児休業中の人が、生後6か月から3歳未満までの子どもを保育所に預けることができる制度である。こども家庭庁によると、対象の子どもは保護者の就業の有無に関係なく、また、障害のある子どもも含まれる。

以上を踏まえて、「こども誰でも通園制度」の意義や課題について、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

**【出題の意図】**

本設問は、「こども誰でも通園制度」の背景を踏まえ、子ども・保護者・地域にとって望ましい支援について、主体的に思考・判断・表現する力を問うものである。制度理解をもとに、教育・福祉・政策の視点から、論理的に「こども誰でも通園制度」の意義や課題を提示できる力を評価する。

<b>一般 (B方式)</b>	<b>看護学部看護学科</b>	<b>小論文 (60分)</b> ※解答省略
---------------------	-----------------	---------------------------

下図は、「現在のお住まいは、地震などの災害に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からあてはまるものを全てお答えください。(〇はいくつでも)」という質問に対する回答結果である(65歳以上の男女2,677人)。この図を参考に、高齢者のひとり暮らしとひとり暮らし以外の災害への備えについて、どのような対応が必要だと言えるか、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

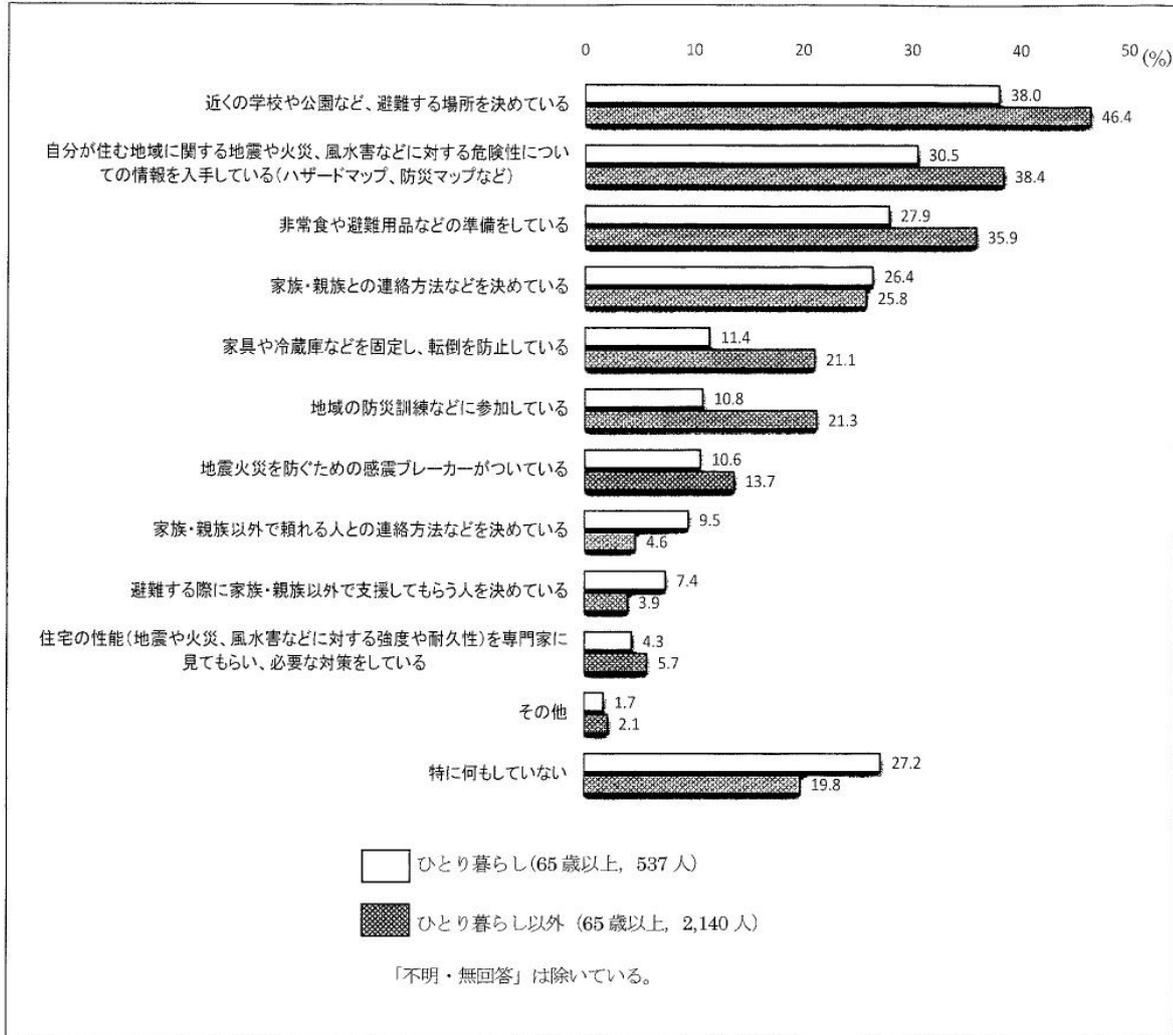


図 地震などの災害への備え(ひとり暮らしとひとり暮らし以外の比較)

内閣府「令和5年度高齢社会対策総合調査(高齢者の住宅と生活環境に関する調査)」(令和5年10月調査)を基に作成

**【出題の意図】**

我が国の高齢化率は、今後更に上昇し、ひとり暮らしの高齢者も増加する見込みである。高齢者が安心して生活するには、生活の基盤となる住まいの整備や自助・共助・公助への取り組みが必要である。調査結果を通して、①身体的・認知的リスク、②情報格差、③社会的孤立、④生活環境の脆弱性、⑤備蓄不足などの課題を持つ高齢者の災害への備えについて、多角的な視点から対応策を述べてもらいたい。日頃から、高齢者や減災など社会の抱える課題に関心を持ち、多様な人々と暮らしやすい社会を実現するための自分の意見や考えを持っているかを問う。